



ICSCoE ReportはICSCoEの活動を皆様にご紹介する広報誌です。



平サイバー安全保障担当大臣(当時)がICSCoEの秋葉原演習施設をご視察

産業サイバーセキュリティセンター (ICSCoE) では、社会インフラ・産業基盤のサイバーセキュリティ対策の強化をテーマに、中核人材育成プログラムを実施しています。プログラムでは産業の現場で実際に使われている制御システムを用いた演習を提供することで、受講者が自社に戻った後、即戦力として活躍できる人材の育成を行っています。2025年9月、平サイバー安全保障担当大臣(当時。以下同じ。)が、演習で使用されているICSCoEの秋葉原演習施設を視察されました。

模擬プラントをご見学

今回の視察では、中核人材育成プログラムの講師が、ビル管理システムや車載制御システムなどの制御システムを模擬したプラントを用いて、サイバー攻撃を想定したデモンストレーションを行いました。



模擬プラントの説明を受けられる平大臣(左)

また、講師から、攻撃により想定される社会への影響や被害を説明するとともに、ICSCoEが実施するサイバーセキュリティ人材の育成事業の取り組みについて解説しました。



車載制御システムについての説明

意見交換を実施

視察の中で、現在の我が国における社会インフラのリスクやセキュリティ対策、サイバー攻撃事例、ICSCoEが進める人材育成のトレーニング内容など、多岐にわたり平大臣より積極的な質問があり、活発な意見交換が行われました。



今後のサイバーセキュリティ対策の
展望について意見交換



2025年度「インド太平洋地域向け日米EU産業制御システムサイバーセキュリティウィーク」を実施



インド太平洋地域からの参加者および主催者集合写真

2025年11月18日から21日まで、日米EUの専門家による産業制御システムのサイバーセキュリティに関するイベントを東京にて開催しました。

本イベントは、経済産業省、米国政府（国土安全保障省サイバーセキュリティ・インフラストラクチャセキュリティ庁、国務省）及びEU政府（通信ネットワーク・コンテンツ・技術総局）と連携し、インド太平洋地域（ASEAN加盟国、インド、バングラデシュ、スリランカ、モンゴル、台湾）の重要インフラ事業者、製造業者、国のCSIRT（Computer Security Incident Response Team）におけるOT（Operational Technology：制御技術）・IT（Information Technology：情報技術）のサイバーセキュリティ担当者や、関連する政府機関における政策担当者等を招へい対象として、2018年から毎年実施してきました。

今年は、日米欧のサプライチェーンレジリエンス強化及びインド太平洋地域の能力構築を最大限に実現するため、演習規模を拡大（初日のライブ配信も含めると昨年に比べて約5倍の参加者数）。IPA ICSCoE講師による各業界特有のリスクや事例等を盛り込んだ仮想企業のシナリオを用いた業界別ワークショップや、産業制御分野におけるAIを活用したサイバー攻撃に対するハンズオン演習を実施したほか、新規のプログラムとして欧州連合サイバーセキュリティ機関（ENISA）によるワークショップを実施しました。

これらのほか、日本の重要インフラ企業のセキュリティ対策事例を共有するプログラムとして、中核人材育成プログラム修了者（7期生）の辰巳大輔氏により、「OTシステムにおけるサプライチェーンセキュリティ管理」と題したセミナー講演を実施し、参加者にとっての知見の取得・能力向上のための貴重な機会となりました。



中核人材育成プログラム修了者によるセミナー講演